

一般国道54号(可部バイパス)建設に伴う埋蔵文化財  
トンガ坊城跡発掘調査通信

# とんがぼ 第6号

(財)広島市文化財団  
文化科学部文化財課

弥生時代の住居跡の調査を開始しました。

この春は天候に恵まれ、順調に調査を進めることができます。6月に入り、次第に気温も高くなり、日陰でも30℃を超える日もあり、炎天下での作業が厳しいものになってきました。

現在、トンガ坊城跡の調査は、弥生時代の住居跡の調査に移っています。調査区内の最も高い場所(標高約117m)では、約9軒の<sup>たてあなじゅうきょ</sup>竪穴住居を確認しています。(竪穴住居については「とんがぼ第3号」に詳しく載っています。)

## 土管?のような土器出土

現在、調査中の竪穴住居の内の1軒から、高さが60cmほどある<sup>ふた</sup>蓋も底もない土管のような形の土器が、やや斜めに立ったままの状態<sup>なな</sup>で住居の中心にある<sup>ろあと</sup>炉跡の上で出土しました。

この土器は、蒸し器の「甑(コシキ)」に形が似ていることから「甑形土器」と呼ばれています。

甑形土器は、どのように使ったか解らない謎の土器です。どちらが上か下かもはっきりしていません。

現在の研究では、蒸し器として使われた<sup>ちょうり</sup>調理道具、<sup>くんせい</sup>燻製を作るための調理道具、家の中に<sup>う</sup>吊り下げて使う<sup>えんとつ</sup>煙突、<sup>さいし</sup>祭祀(儀式やお祭り)に使われた道具など様々な使用方法が考えら

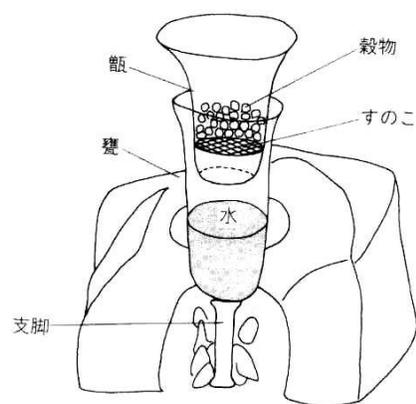


れています。

この甑形土器は、トンガ坊城跡遺跡の他に、  
上深川北遺跡（安佐北区上深川）、大町七九谷B  
地点遺跡（安佐南区大町）、倉重向山遺跡（佐  
伯区倉重）など広島市内では約 10 遺跡で出土し  
ています。

甑形土器の名前の元になった「甑」とは、古墳時代に  
朝鮮半島から日本列島へと伝わった生活道具です。

右の図のようにかめに入れた水を沸かし、その水蒸気  
で甑に入れた食物を蒸します。今では、甑の代わりに竹  
で編んだ蒸籠を使っています。



甑の使い方

玉口時雄・小金井靖著  
『土師器・須恵器の知識』考古学シリーズ  
17 より引用



大町七九谷遺跡出土の甑形土器



実測図

土器の特徴を図で表現するために図の  
真ん中から左側は土器の外側の図、右  
側は土器の断面と内面の図を描いてい  
ます。

トンガ坊城跡発掘調査に関するお問合せ  
財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課  
広島市東区光町二丁目 15 番 36 号  
TEL082-568-6511  
ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>  
メール [hbb@mogurin.or.jp](mailto:hbb@mogurin.or.jp)  
発掘調査現場直通 090-6433-6743

広島市内で出土した甑形土器は、  
他に出土した土器とともに、広島市  
文化財団文化科学部文化財課の収蔵  
展示室に展示されています。